

◎首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練

南街・桜が丘地域防災協議会本部

東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議が主催の標記訓練に、東大和市災害ボランティアセンター協議会メンバー(東大和市社協内)として、見学者として参加しましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 日時:平成 29 年 2 月 21 日(火) 10:10~17:30
2. 場所:たましんRISURUホール(立川市市民会館)
3. 内容

下記の通り、プレイヤー(39名)と見学(61名)の2つに分かれ、それぞれのプログラムを平行して消化しました。

(1) プレイヤー参加プログラム

(プログラム1)

これまでの東京都域での訓練経過説明。

首都直下地震(立川断層帯地震)における被害想定 of 解説。

(プログラム2)

5グループ(北多摩西部ブロック、北多摩北部ブロック、北多摩南部ブロック、都外支援団体、東京都災害ボランティアセンター)に分かれて、発災直後から3週間後までに想定される被害・支援状況を共有。都内被災市の中の北多摩西部ブロック(写真①)に、東大和市社協が参加(写真②)。

(プログラム3)

5グループがそれぞれ、1か月後の要配慮者の状況を共有し、状況把握の方法や、支援のリソースなどを検討。

(振り返り・訓練講評)

招待者からのコメント、2名の評価者の講評、山崎所長(東京ボランティア・市民活動センター)の総括。

(2) 見学参加プログラム

(プログラム1)

同上

(プログラム2)

プレイヤープログラム2、災害ボランティア用語集、行政とNPO/NGOの連携、人道支援の国際基準、等の解説(写真③)。

プレイヤープログラム2の見学(写真④)。

(プログラム3)

プレイヤープログラム3、避難所における要配慮、等の解説。

見学者同士の意見交換。

プレイヤープログラム3の見学。

(振り返り・訓練講評)

同上

4. まとめ

見学者として参加させて頂き、プレーヤーの情報共有・支援検討状況を、疑似体験させて頂きました。一連のプログラムの中では、2回の情報共有会議(写真⑤)が開催され、さまざまな団体が支援する大災害での会議の必要性が、認識されました。

これだけ多数の方々(社協、災害ボラセン、等)が一堂に会して行う訓練の機会は、なかなか無いと思います。豊富な内容で見学者としては未消化な部分も多々あると思われませんが、大災害時での情報共有・連携のスキルをみながくことの大切さを実感致しました。

見学者用に頂いた「災害ボランティア関係用語集」は、頭の整理に、大いに役立つと思います。

以上



写真①



写真②

北多摩西部ブロック(東大和市社会福祉協議会が参加)



写真③

別室にて見学参加者用プログラム



写真④

訓練見学参加の様子



写真⑤

2回の情報共有会議